

巻頭座談会

“最旬”なりサイクル技術とは

原点は生活者の知恵

——日本の繊維リサイクル史の変遷を、より、新しく作るほうが木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

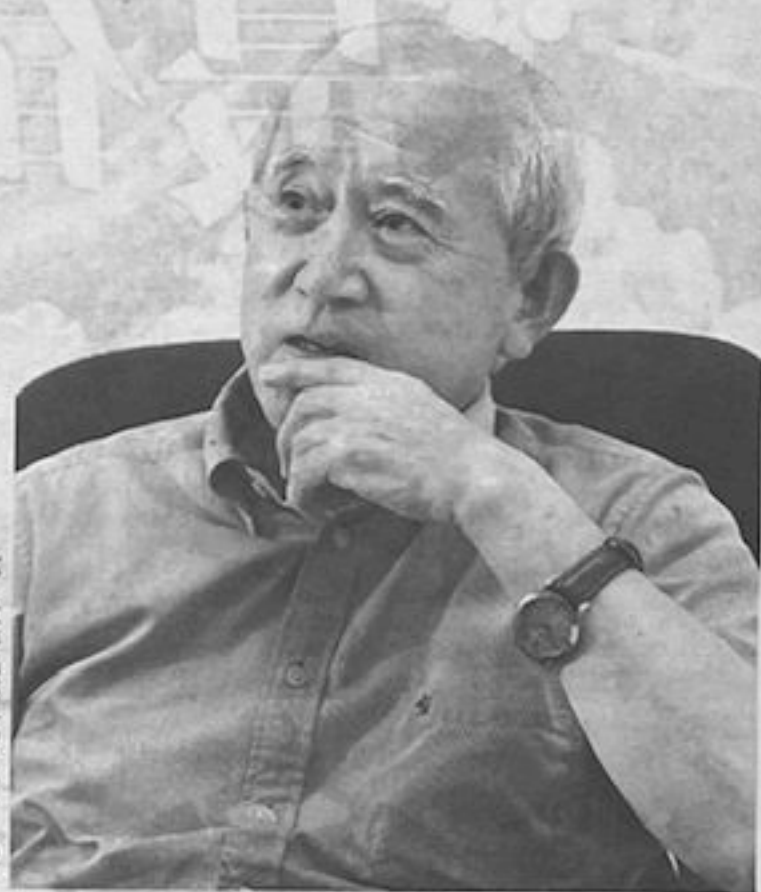
木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

世界的にサステナビリティへの要求が強まる中、リサイクル技術の社会実装によって循環型経済を構築することは繊維業界にとっても喫緊の課題となる。ただ、繊維リサイクル普及のためにはさまざまなハードルを乗り越える必要がある。従来のような工学的立場からだけでなく、消費者の感性や認識に働き掛けるデザインや文化論からのアプローチも不可欠だろう。日本繊維機械学会の繊維リサイクル技術研究会のメンバーが、産官学の立場から工学、デザイン、文化が融合した繊維リサイクルの可能性について語り合う（文中敬称略）。



木村氏

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

リサイクルを阻むコスト高

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

木村 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。



森下氏

森下 日本は古くからリサイクルの文化がある。古くは江戸時代までさかのぼることができ、当時の人々にとって、古紙や古布を回収、再利用することは当たり前のことだった。それはモノの少ない時代の生活者の知恵であり、今私たちが取り組んでいるリサイクルとは全く性質が異なる。この10年間で地球規模の環境問題への対策が迫り、リサイクルの需要も高まり、世の中にあるモノをどう処理するかというところにも大きな変化が起きている。

価値観の転換欠かせぬ

——リサイクルが社会に広く普及するのに必要なことは、例えはファッション木村 従来廃材と見なされてきたものに対して世の中が価値を感じるようになって、どんどんリサイクル化を感じ取りながら生まれてくるものだと思います。例えばファッション木村も、言葉にはできない世の中の微細な変化を表現する試みでもあると思うんです。

宮原 リサイクル商売の方法、多彩な表現、幅広いアイテムがあることで、多くの人がりサイクルの価値、恩恵を少しずつ理解できるようになるんじゃないでしょうか。

だから、もしデザインの価値をどのように届けたいか、そのために何をすべきか、を考えると、それは、社会の現実といったイメージを何かのデザインに込めたなら、それを具体的に説明できる、分りやすく伝えられるような、そういう工夫ができ、その影響が大きい、というふうに思っています。

森下 私はフアッシュヨ
ンに限らず、デザインと
いうものは、世の中の変
表現はたくさんある方が
価値観を伝えるための
人が必要ですね。
いけば、店頭で商品を手
に取ることで良し悪しや
商品に込められたメッセ

氏
一ジを受け
入れられる
かどうかを
判断する人
も少なくな
いと思っ
てます。

人間文化学部
教授 博士(学術)

森下 あおい 氏

キャリア形成学部
講師 博士(学術)

宮原 佑貴子 氏

トリア紡コーポレーション
取締役兼常務執行役員
管理・技術担当

水森吉紀氏

工学、デザイン、



宮原氏

います。
リサイクルを促進するもう一つのアプローチは、大手フアッションブランドの知名度を利用するとい

ツシムは楽しむものに変わりはないと思います。パッとみて素敵かどうかが大変なんです。

繊維素材の作り手やデザイナーが考える地球環境をいかに守るかとか、持続可能性にどのように貢献するかといった課題に挑む姿勢は大切ですが、やはり消費者にそれを伝

ション、売り方、デザイの三位一体で演出することが重要だと考えま

あとはリサイクルを流費者目標で魅力のあるメッヤージ、見せ方、伝え方に変えていかななくてはならないと思います。

またリサイクルは流行であってほらないと思

取り組むは、どちらか

は二酸化炭素排出量を減らすためにリサイクルするの。ゴミ問題に取り

組むなら作りすぎを止める研究というアプローチもあると思うんですね。

なせ私たちはリサイクルするか、この原点を考

えることをおろそかにし

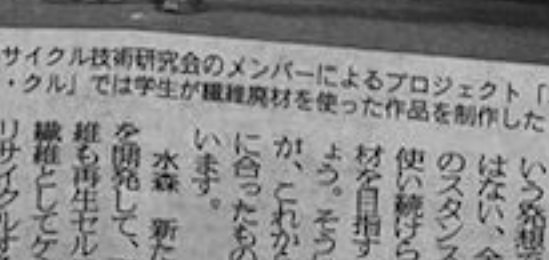
てはいけないと思いま

す。



水森氏

うごとも考
えられま
す。例えば、
H&Mは遅
くとも20
30年まで
に、再生ホ
リエステル
なく、持続
可能な素材
やリサイク
ルされた資
源しか使わ
ないと宣言
しているわ
けです。あ
るいはプラ
ダはこれか
ら使いかたを
変えています。
が知る大企
が指針を出



繊維リサイクル技術研究会のメンバーによるプロジェクト「エン・ウィン・クル」では学生が繊維廃材を使った作品を制作した

形で普及する
短命に終わっ
つような気が
す。はやらせ
いう発想で作
はない、全く別
のスタンスで未
使い続けられる
材を目指すべき
よう。そういう
が、これからの時
に合ったものだ
います。

水森 新たな技
術を開発して、天然
繊維を再生セルロー
ズとしてケミカル
リサイクルする手
もあるかもしれま
せんね。必ず繊維が
繊維というリサイ
クルでなくても、織物

術の開発と製造コストが
一番大きな課題です。こ
の課題を乗り越えられる
ようにする、マーケット
が生まれることを期待し
たいですね。これだけ求
める人が多いのであれ
ば、企業として多少でも
利益が残るのであればや
ろうという判断もできる
ようになります。

——これからのリサ
イクルは何か課題

で、どこへ向かうの
でしょうか。

木村 技術面というこ
ろ、リサイクル品で一定の物
性をどう担保するかとい
うところですね。ポリエ
ステルのケミカルリサイ
クルは同じ物性のものを
作れるので普及が進んだ
わけですが、天然繊維を
そのまま繊維としてリサ
イクルして、どこまで一
定の均質な物性を実現す
しょう。今年、イタリヤ

るかというところはこれ
からの課題です。

私はこの問題の解決に
はこれまでとは違う発想
の新たな紡績機械が必要
だと思っています。繊維長が
短くなっても十分な強度
がある糸を作れるように
するにはどうすればよい
のか。これまででなか
ったリサイクル糸の作り
方を新たに開発すべきで
しょう。今年、イタリヤ

そして、もつム、人に広
がっていきますよね。知
名度のある企業やフラン
ドと組むとかなり効率的
にリサイクルを広められ
ると思います。

ただ、サステとか、環
境に配慮したというよ
うな文言が世の中に氾濫
しています。人間が作
るもので100%環境に
優しいものはないんで
す。だから、どのような
観点でサステなのかを企
業は明示するべきだし、
消費者もそれをしっかり
理解した上で買うべきで
しょう。最近、クリーン
ウォッシュがあまりにも
多いと思います。

森下 消費者がまず商
品を手取る時に、目的
や用途といった理屈も大
事ですが、それ以上に大
切なのがその商品が好き
だからということだと思
います。選ばれる商品は
かきまえるなら、なぜリ
サイクルすべきかを明ら
かに商品にすると、かき
まえる物にするとはいえ
ない別の物にするといふ
手法もあると思います。

素材の作り手としては
こういう研究を進めてい
べきかもしれません。

木村 繊維リサイクル

流行で終わらせない

宮原 消費者の視点に
ては、これからもフ
ア える時には、楽しいと感
じさせるようなプロキ
今のリサイクル商品や
イルするの、あるの
の、リサイクルを広める
リサイクルをするのが
石油が枯渇するからリサ

「シヨンは豪しむものに
わりはないと思いま
シヨン、売り方、デサイ
の三位一体で演出する
ことが重要だと考えま
す。」

「取り組むは、どちらかと
は二酸化炭素排出量を減
らすためにリサイクルす
るのか。ゴミ問題に取り
組むなら作りすぎを止め
ているので、それを消

「アフリカが考える地球環境
行やブームで終わらせない
ソーシング、見せ方、伝え
方にもあると思うんですね。
S 方に変えていかなければ
なす私たちがよりサイクル

るのか、この原点を追

は消費者にそれを伝
以降も課題の解決に向け
うんです。流行のよくな
す。